



TOP INNOVATOR
TOP i 2030

中外製薬 会社説明会

中外製薬株式会社
取締役 上席執行役員 CFO

板垣 利明

2022年12月9日（収録）



重要な注意事項

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び将来に関する見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、それらは宣伝・広告や医学的なアドバイスを目的とするものではありません。

決算データから見る、中外製薬の強さ

	PER	PBR	配当利回り	営業利益率	ROE	ROA	10年平均成長率 (営業利益)	3年平均成長率 (営業利益)	自己資金比率
中外製薬	20.27倍	5.17倍	2.16%	42.20%	27.95%	21.84%	21.10%	50.30%	77.20%
A社	20.36倍	0.88倍	4.72%	12.91%	4.24%	1.76%	5.70%	31.00%	43.10%
B社	27.86倍	2.27倍	2.92%	12.01%	8.72%	5.39%	1.70%	-13.90%	62.60%
C社	83.81倍	5.85倍	0.67%	6.99%	5.11%	3.11%	-2.90%	-4.40%	60.80%
D社	33.06倍	2.90倍	1.91%	7.11%	6.61%	4.12%	-5.60%	-14.60%	60.40%

営業利益率の高さ、ROE・ROAなど稼ぐ力
営業利益の成長率は3年～10年までも高成長
自己資金比率も業界随一で成長と財務の安定性を兼ね備えている

(出所：各種決算データより馬淵作成)

会社概要

がん・バイオに強みを持つ、研究開発型製薬企業

医療用医薬品メーカーとして日本トップクラス

売上収益 9,998億円 営業利益 4,341億円 従業員数7,664名 (2021年度決算Coreベース)

国内がん領域で売上シェア 第1位* (2021年度決算ベース)

国内抗体医薬品市場で売上シェア第1位* (2021年度決算ベース)

ユニークなビジネスモデル

戦略パートナーであるロシュ社が株式59.89%を保有

独立した上場企業として自主的経営を実行

独自のサイエンス・創薬技術力

国産初の抗体医薬品を創製。抗体・中分子等で世界最先端の技術力



自主独立経営を行うビジネスモデル、ロシュとの戦略的提携



Roche ロシュ グループ

- 中外製品をグローバル市場で最大化
- 豊富なロシュ製品を日本で展開

自社創製品

革新的・挑戦的な創薬に特化

ロシュへの導出により
グローバル開発・販売を加速

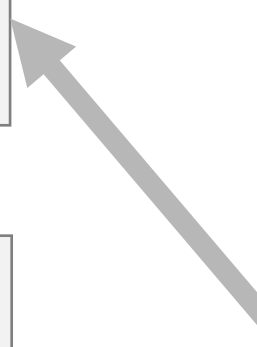


- ロシュ製品を日本市場で最大化
- 革新的な中外創製品をグローバルで展開

ロシュ導入品

有力新薬候補を
日本市場で独占的に開発・販売

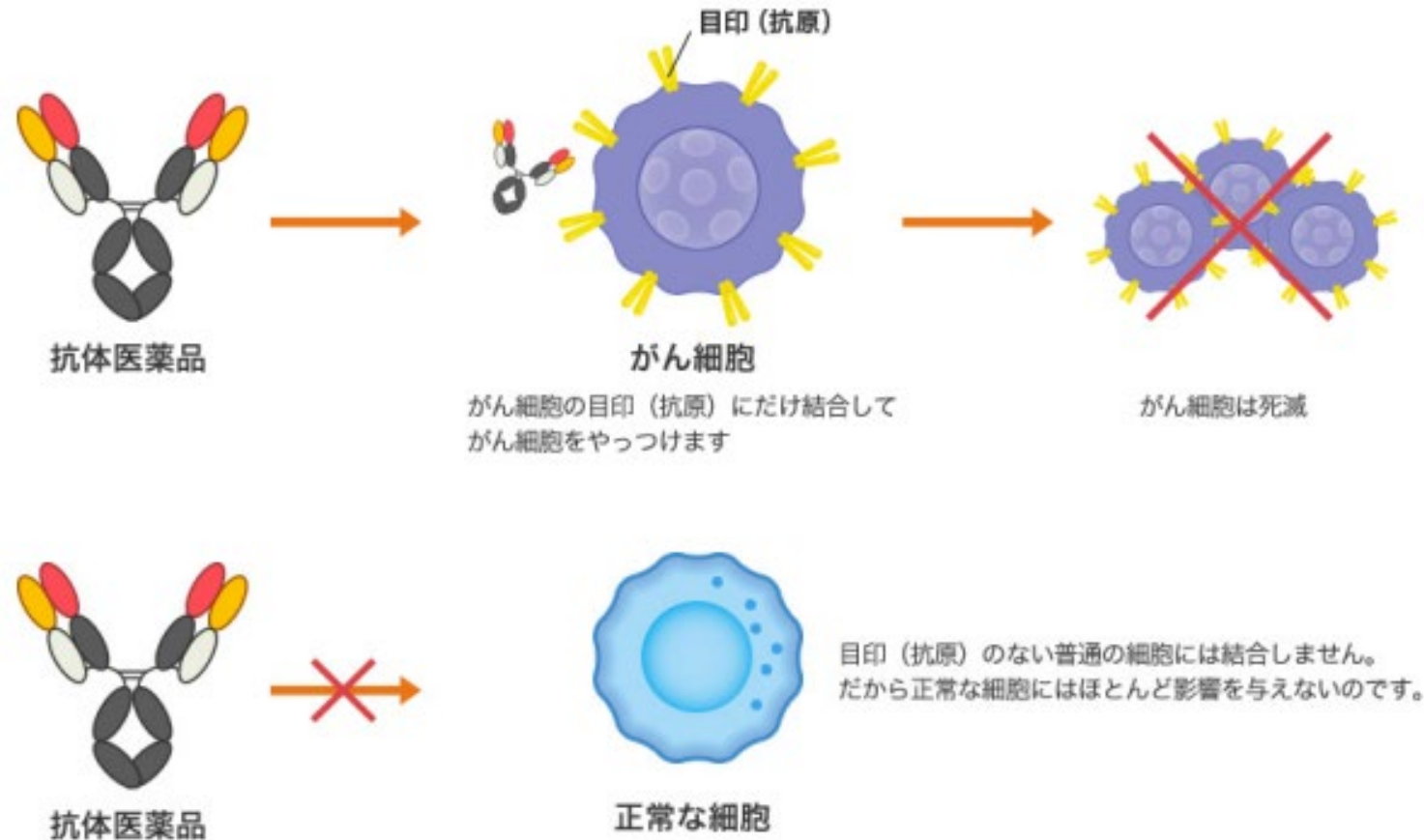
国内事業で安定的な
収益を確保



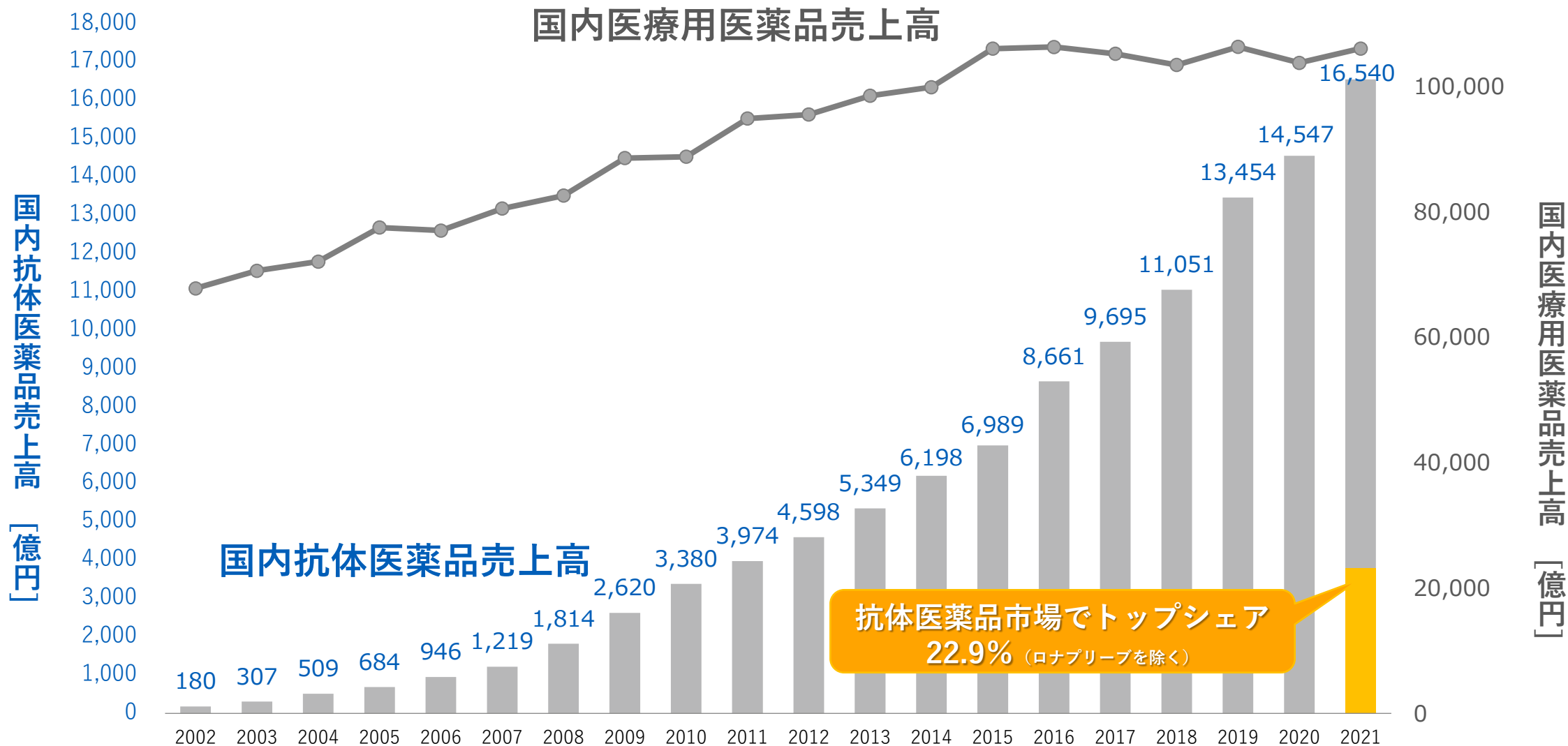
抗体医薬品とは

病原菌などの異物（抗原）が体内に入ってきたときに、その異物と結合して無毒化させようとする物質を抗体といいます。この作用は「抗原抗体反応」と呼ばれ、人間が持つ免疫機能といわれるものです。

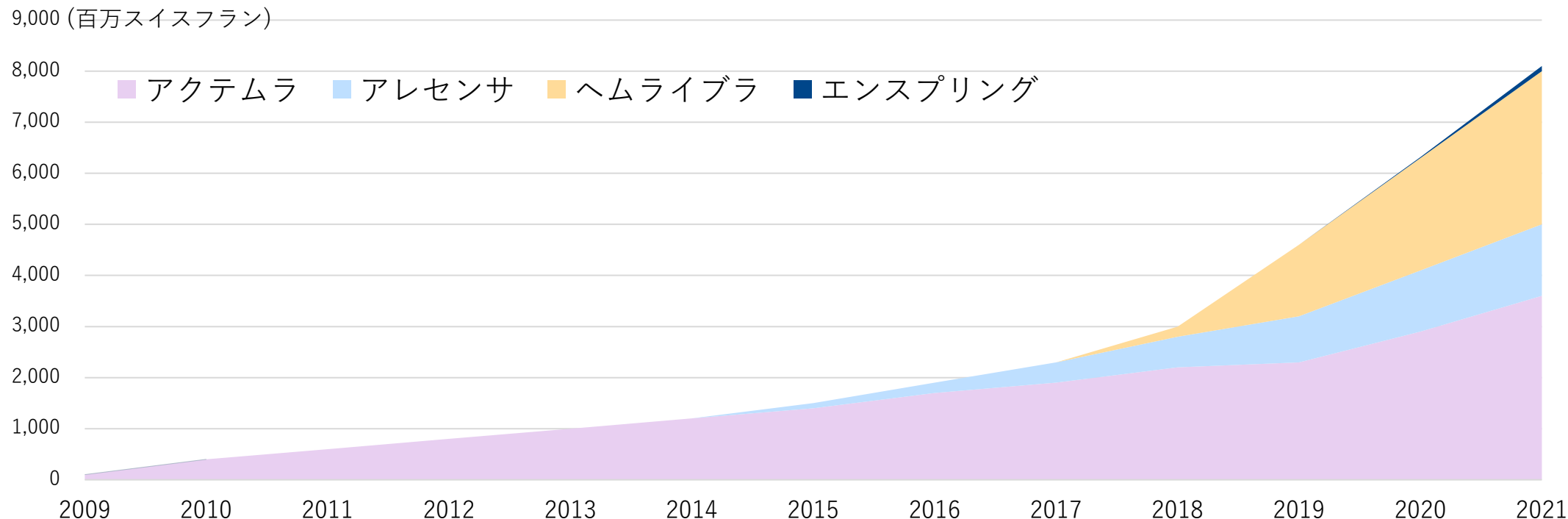
抗体医薬品は、この抗原抗体反応を人工的に利用したくすりです。



抗体医薬品の国内売上高推移



自社創製品の世界売上高



アクテムラ®



- ・国産初の抗体医薬品
- ・適応症：関節リウマチなど
- ・全世界で売上4,000億円以上

アレセンサ®



- ・当社が推進する個別化医療の代表例
- ・適応症：ALK陽性 肺がん
- ・全世界で売上1,500億円以上

ヘムライブラ®



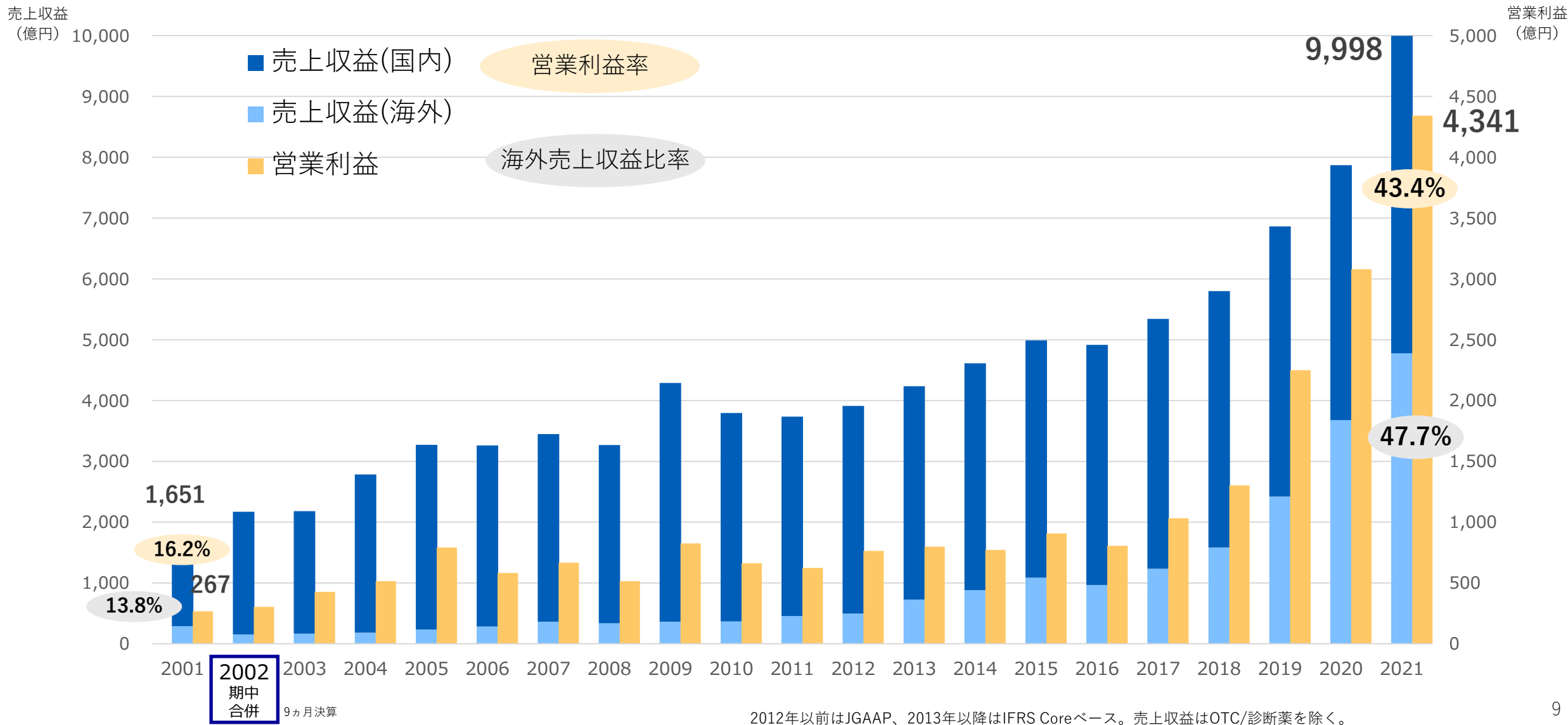
- ・独自の抗体技術を活用
- ・適応症：血友病A
- ・全世界で売上3,500億円以上

エンスプリング®



- ・独自の抗体技術を活用
- ・適応症：視神経脊髄炎
スペクトラム障害

20年間の軌跡



2030年に向けた成長戦略 TOP I 2030

『R&Dアウトプット 倍増』 ・ 『自社グローバル品 毎年上市』

世界最高水準の創薬実現

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ R&Dアウトプット倍増により毎年自社グローバル品上市
- ▶ デジタル活用およびグローバル先進プレイヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

先進的事業モデルの構築

- ▶ デジタルを核としたモデル再構築による患者価値・製品価値の飛躍的向上
- ▶ バリューチェーン全体にわたる生産性の飛躍的向上
- ▶ 医薬品の価値最大化と収益の柱を目指したインサイトビジネスの事業化

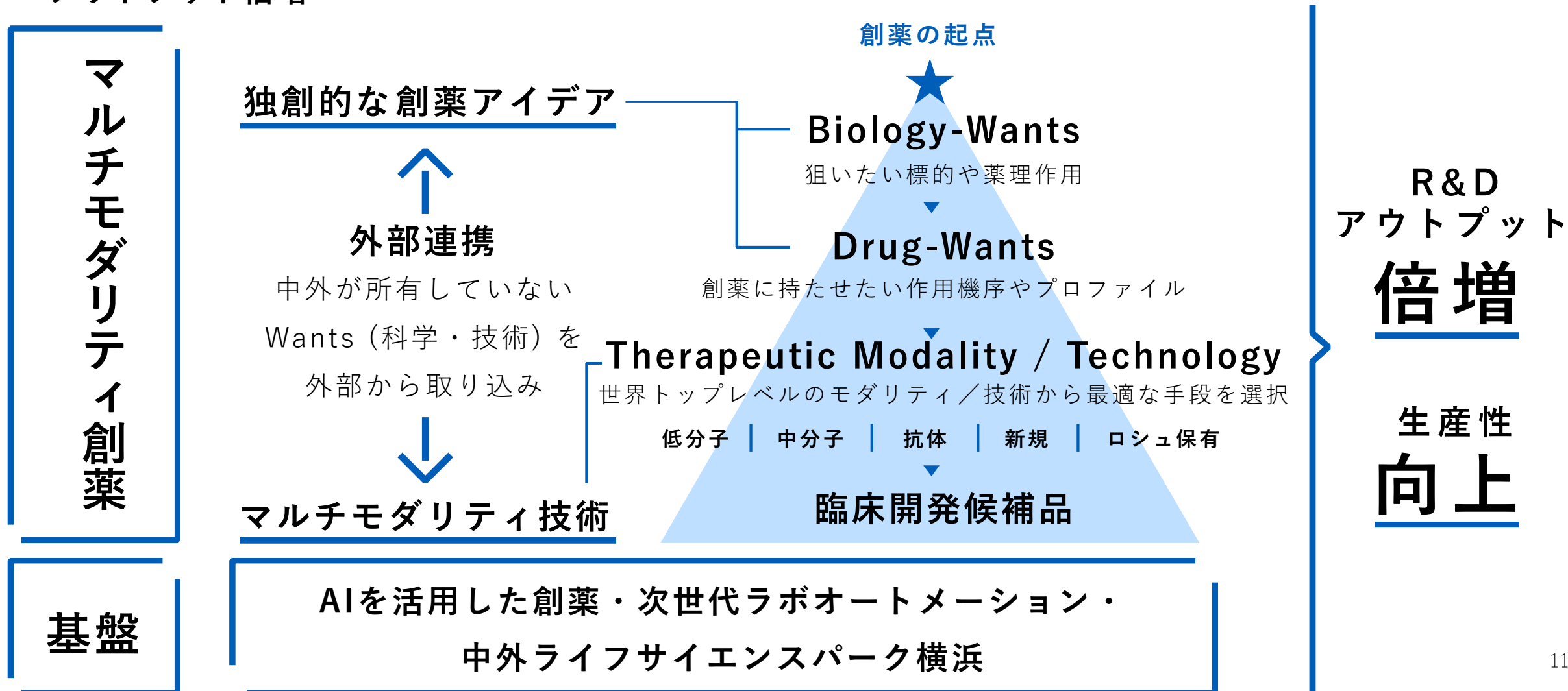
Key Drivers ▶ DX ▶ RED SHIFT ▶ Open Innovation

5つの改革 ①創薬



Roche ロシュ グループ

- 独創的な創薬アイデアを具現化する創薬技術基盤強化に加え、デジタル強化・外部連携の促進により
アウトプット倍増



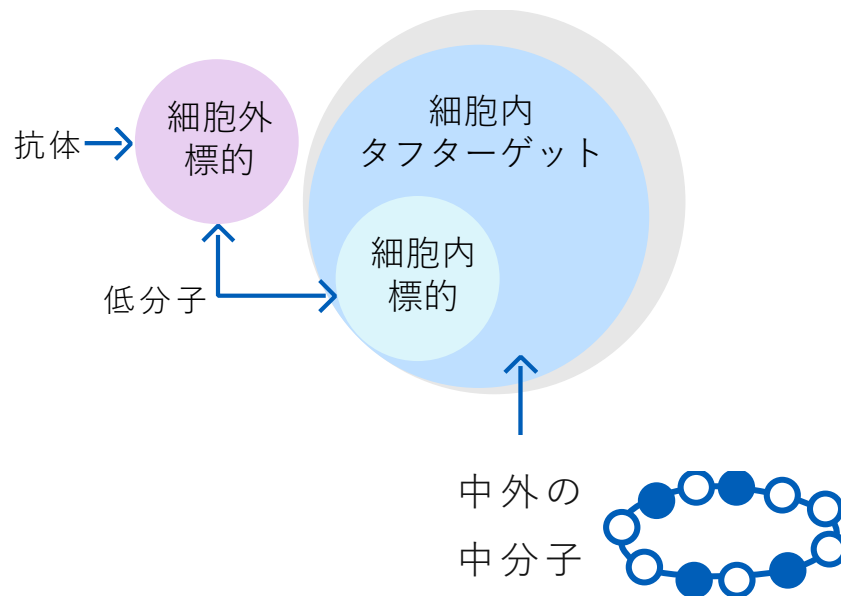
大いなる挑戦としての中分子創薬

■ 第三の柱として注力する中分子技術を用いた最初の臨床入りプロジェクト 「LUNA18」 2021年10月から臨床試験を開始

中外の目指す 中分子技術の競合優位性

従来技術では困難であった細胞内タフターゲット（タンパク）を
標的にできる

- ▶ 細胞内に
アクセス可能
- ▶ 経口投与可能
- ▶ 抗体並みの結合力
- ▶ 多様なライブラリー
構築プラットフォーム



患者さんへの 提供価値



* Unmet Medical Needs

中外ライフサイエンスパーク横浜

- 富士御殿場と鎌倉の2つの研究所を集約。異なる分野の研究者のコミュニケーションを促し、技術を融合することで、さらなるイノベーションの創出を期待



自社創製品の豊富な開発ポートフォリオ



Roche ロシュ グループ

2022年2月3日現在

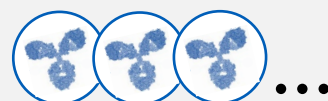
創薬研究・リード骨格の最適化

GLP-Tox

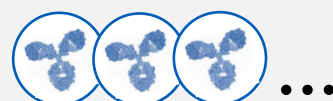
臨床試験

承認済み

抗体医薬品



>20



6

AMY109
GYM329
SOF10
ERY974
NXT007
STA551
GC33

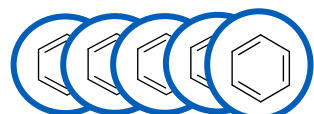


クロバリマブ
エンズプリング(gMG)
ヘムライブラ(AHA)



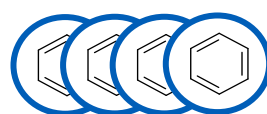
エンズプリング
ヘムライブラ
アクテムラ
ミチーガ

低分子医薬品



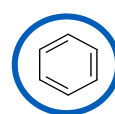
ヒット化合物の同定

5



リード骨格の最適化

4

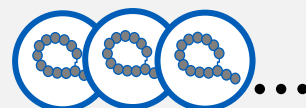


SPYK04
EOS789
OWL833
CKI27
アレセンサ(NSCLC adjuvant)



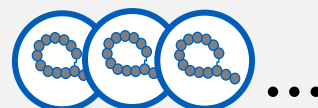
アレセンサ
エディロール
オキサロール
デベルザ

中分子医薬品



リード骨格の同定

16



リード骨格の最適化

10



LUNA18

青字：ロシュと共同開発

橙字：ロシュ以外の第三者に導出済み

今後の申請予定（PoC取得済開発品・製品）

2022年10月24日現在

申請中

RG6264
(配合剤, 皮下注)
乳がん/大腸がん

ガザイバ
(RG7159)
慢性リンパ性白血病

アクテムラ
(MRA/RG1569)
COVID-19肺炎(米国)

★ アクテムラ
(MRA/RG1569)
SSc-ILD(欧州)

ヘムライブラ
(ACE910/RG6013)
血友病A(軽症~中等症)
(欧州)

クロバリマブ
(SKY59/RG6107)
PNH (中国)

新規 適応拡大
自社創製品（グローバル開発）
ロシュ導入品（日本開発販売）

★ 新規追加
★ 申請年変更

テセントリク 2L NSCLC (カボザンチニブ併用)	バビースモ (RG7716) 網膜静脈閉塞症	★ テセントリク (RG7446) 早期乳がん(アジュバント)	プラルセチニブ水和物 (RG6396) 1L NSCLC	★ エンスプリング (SA237/RG6168) 自己免疫介在性脳炎
テセントリク (RG7446) NSCLC (アジュバント)	アバスチン (RG435) 1L SCLC (テセントリク併用)	★ テセントリク (RG7446) 早期乳がん(アジュバント)	mosunetuzumab (RG7828) 2L 濾胞性リンパ腫	★ エンスプリング (SA237/RG6168) MOGAD
ガンテルマブ (RG1450) アルツハイマー病	テセントリク (RG7446) 頭頸部がん(維持療法)	mosunetuzumab (RG7828) 3L 濾胞性リンパ腫	テセントリク (RG7446) MIBC (アジュバント)	ガザイバ (RG7159) ループス腎炎
チラゴルマブ (RG6058) 1L NSCLC (テセントリク併用)	テセントリク+アバスチン (RG7446+RG435) 肝細胞がん(アジュバント)	チラゴルマブ+テセントリク (RG6058+RG7446) NSCLC (ステージ III)	mosunetuzumab+ボラビニ (RG7828+RG7596) r/r aNHL	テセントリク (RG7446) 2L 肝細胞がん
アレセンサ (AF802/RG7853) NSCLC (アジュバント)	テセントリク (RG7446) 2L 腎細胞がん (カボザンチニブ併用)	エンスプリング (SA237/RG6168) 全身型重症筋無力症	ラニビズマブ(PDS) (RG6321) nAMD/DME	テセントリク+アバスチン (RG7446+RG435) 肝細胞がん (intermediate ステージ)
クロバリマブ (SKY59/RG6107) PNH	テセントリク (RG7446) 1L 尿路上皮がん	クロバリマブ (SKY59/RG6107) aHUS	SRP-9001 (RG6356) DMD	テセントリク+アバスチン (RG7446+RG435) 肝細胞がん (intermediate ステージ)
			GYM329/RG6237 脊髄性筋萎縮症* (エブリスディ併用)	★ テセントリク (RG7446) 早期乳がん(アジュバント)

2023

2024

2025以降

*PoC取得前

PoC後プロジェクトの市場売上

2022年2月3日現在

黒字の製品：2022～2029年、紫字の製品：2030年以降をピークセールス年と想定

自社創製品	★★★★★ グローバル4,000億円超	★★★★ 同2,000億円超	★★★ 同 1,000億円超	★ 同 1,000億円以下
	ヘムライブラ (血友病A、後天性血友病A)	エンスプリング (視神経脊髄炎スペクトラム障害、全身型重症筋無力症、他) ネモリズマブ* (結節性痒疹、アトピー性皮膚炎)	アレセンサ (非小細胞肺癌、非小細胞肺癌 (アジュバント)、未分化大細胞リンパ腫、他) クロバリマブ (発作性夜間ヘモグロビン尿症、非典型溶血性尿毒症症候群、鎌状赤血球症、他)	
ロシユ導入品	★★★★★ 国内600億円超	★★★★ 同300億円超	★★★ 同 150億円超	★ 同 150億円以下
	テセントリク [1,000億円超] (非小細胞肺癌、小細胞肺癌、尿路上皮がん、腎細胞がん、前立腺がん、肝細胞がん、トリプルネガティブ乳がん、卵巣がん、頭頸部がん、食道がん、膵臓腺がん、他)	ポライビー (びまん性大細胞型B細胞リンパ腫) バビースモ (加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症)	エブリスディ (脊髄性筋萎縮症) ハーセプチン/パージェタ配合剤 (早期乳がん、転移性乳がん) チラゴルマブ (非小細胞肺癌 stage III、非小細胞肺癌 1L、小細胞肺癌 1L、食道がん) Giredestrant (早期乳がん、転移性乳がん)	ガザイバ (濾胞性リンパ腫、他)

*海外はGalderma社、国内はマルホ社に導出済み。Galderma社およびマルホ社の予想に基づく

() 内は予想に含まれる適応症

取締役構成、ガバナンス体制

ビジネスモデルを活かす、社内/社外/ロシュ在籍の多様性のある人員構成

中外から3名

業務執行取締役



奥田 修
代表取締役社長 CEO



山田 尚文
上席執行役員



板垣 利明
上席執行役員 CFO

独立社外取締役

社外から3名
(いずれも独立)



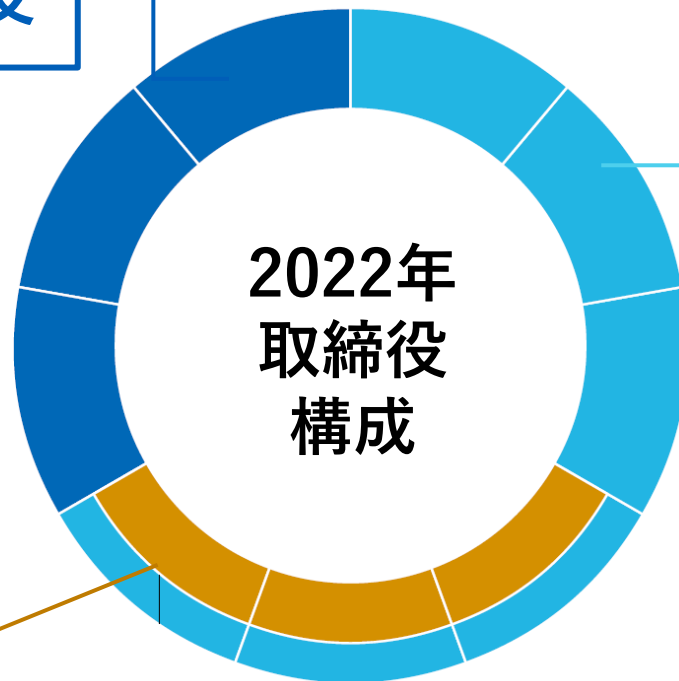
奥 正之



一丸 陽一郎



桃井 眞里子



ロシュから3名

非業務執行取締役



クリストフ・フランツ



ウィリアム・エヌ・
アンダーソン



ジェイムス・エイチ・
サブリエ

特別委員会の設置

少数株主の権利・平等性の確保

- プライム市場上場会社に関わる改訂コーポレートガバナンスコードの要請により、当社は特別委員会を設置することを選択（2022年3月29日設置）
- 親会社であるロシュと少数株主の利益が相反する可能性のある重要な取引・行為等について審議・検討
- 報酬委員会の社外委員を兼務する独立社外取締役1名を含む、独立性を有する取締役または監査役のみからなる3名以上で構成

氏名	役割	当社における地位
一丸 陽一郎	議長*1	独立社外取締役*2
奥 正之	委員	独立社外取締役*2
増田 健一	委員	独立社外監査役*2



*1 委員の互選により選定

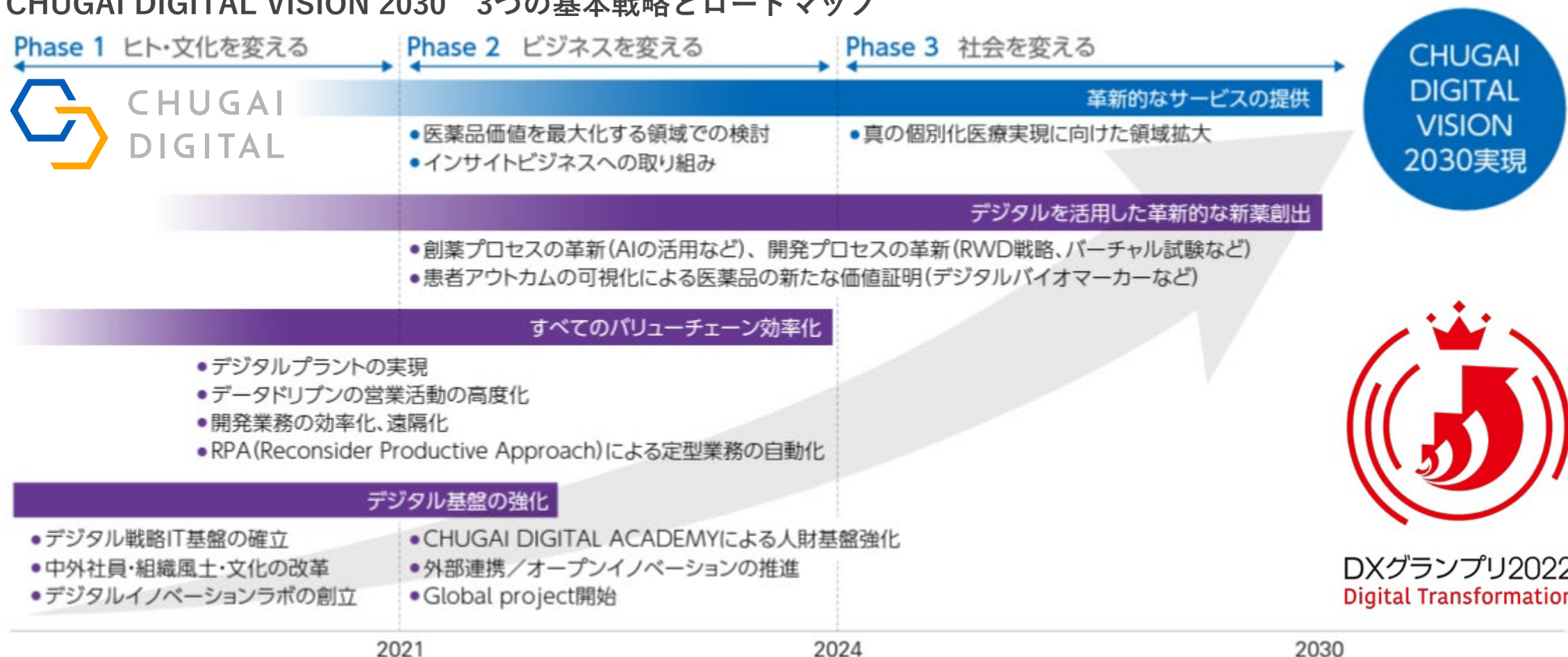
*2 株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ています

DX銘柄：2020年から3年連続で選定、2022年はグランプリ



- 成長戦略「TOP I 2030」とDX推進に向けたビジョン「CHUGAI DIGITAL VISION 2030」が連動し、創薬、生産プロセスから、医療関係者および患者さんまで網羅した取り組み実績が総合的に高評価

CHUGAI DIGITAL VISION 2030 3つの基本戦略とロードマップ

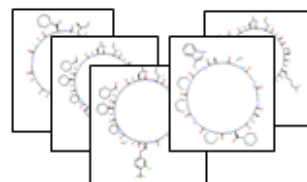


デジタルを活用した創薬研究

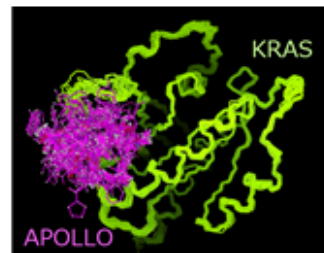
中分子 x AI



構造解析技術の強化
(クライオ電顕の導入)



AI技術による
化合物構造発生



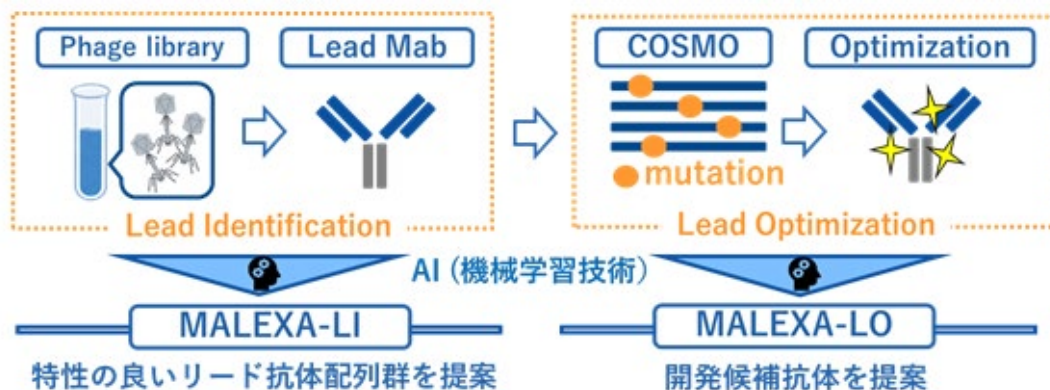
分子動力学シミュレーション、結合部位推定

Digital Pathology : 病理解析のデジタル化、定量化

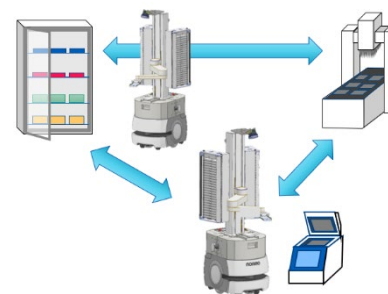


複数の病理解析を自動化し、
画像から注目すべき特徴を数値化

抗体 x AI



ロボティクス：次世代ラボオートメーション



自動化機器間を連携する
モバイルロボット



研究員動作を模倣する
ベンチ型ロボット

環境保全（Environment）

- 中期環境目標2030は、ロシュグループ環境目標と整合性を持つチャレンジングな目標
- 気候変動対策、循環型資源利用、生物多様性保全の3つが重点課題

- 気候変動対策：2050年に「CO₂排出ゼロ」目標、脱フロン対策

- ✓ 国際環境非営利団体CDPより、環境対策における先進企業として、気候変動対策と水セキュリティ対策の2部門において最高評価（Aリスト）選定
- ✓ 温室効果ガス削減目標がパリ協定に整合する水準として、Science Based Targets（SBT）認定を取得

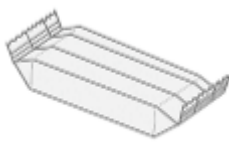


- 循環型資源利用：プラスチック廃棄物削減など

- ✓ 従来の石油由来のバージンプラスチック（再生素材ではないプラスチック）から、環境配慮包材への切り替えを開始



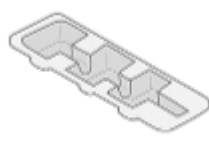
PTP



アルミビロー



プラスチックボトル



シリンジブリストアー

- 生物多様性保全：有害廃棄物排出減、森林保全活動など

- ✓ 生産拠点における水源保全活動の実施



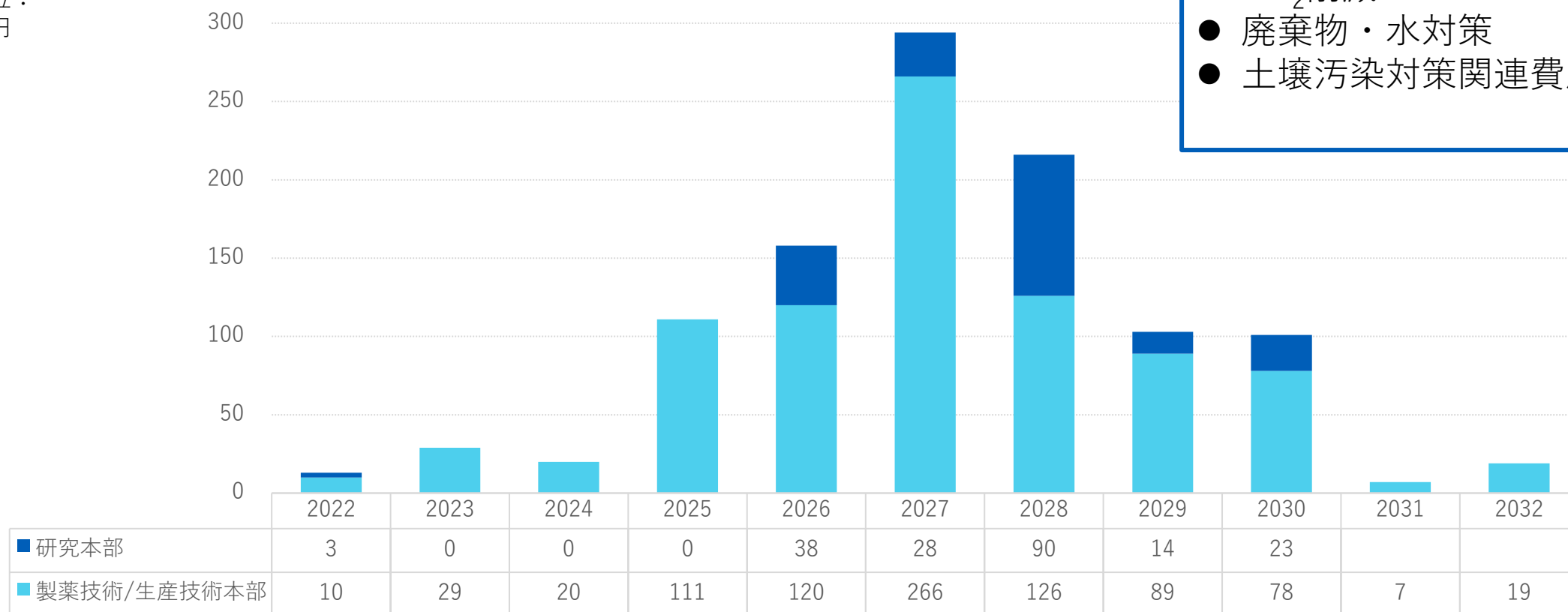
今後10年間の環境投資（試算）

- 2032年までの累計で1,072億円を環境投資として試算*
（研究本部：196億円、製薬技術/生産技術本部：876億円）

単位：
億円

環境投資内訳：

- フロン削減
- CO₂削減
- 廃棄物・水対策
- 土壌汚染対策関連費用
など



*中期環境目標2030の達成に向けて、設備更新や既定の投資予定を早めて実施するものを対象に試算。億円未満は四捨五入して表示

株価推移（終値）



*：2020年7月1日を効力発生日として普通株式を1株につき3株の割合で株式分割を行っております。
2020年6月30日以前の株価は、当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

株式の基本情報

■ 単元株：100株 ■ 証券コード：4519（東証プライム市場） ■ 株主優待：なし

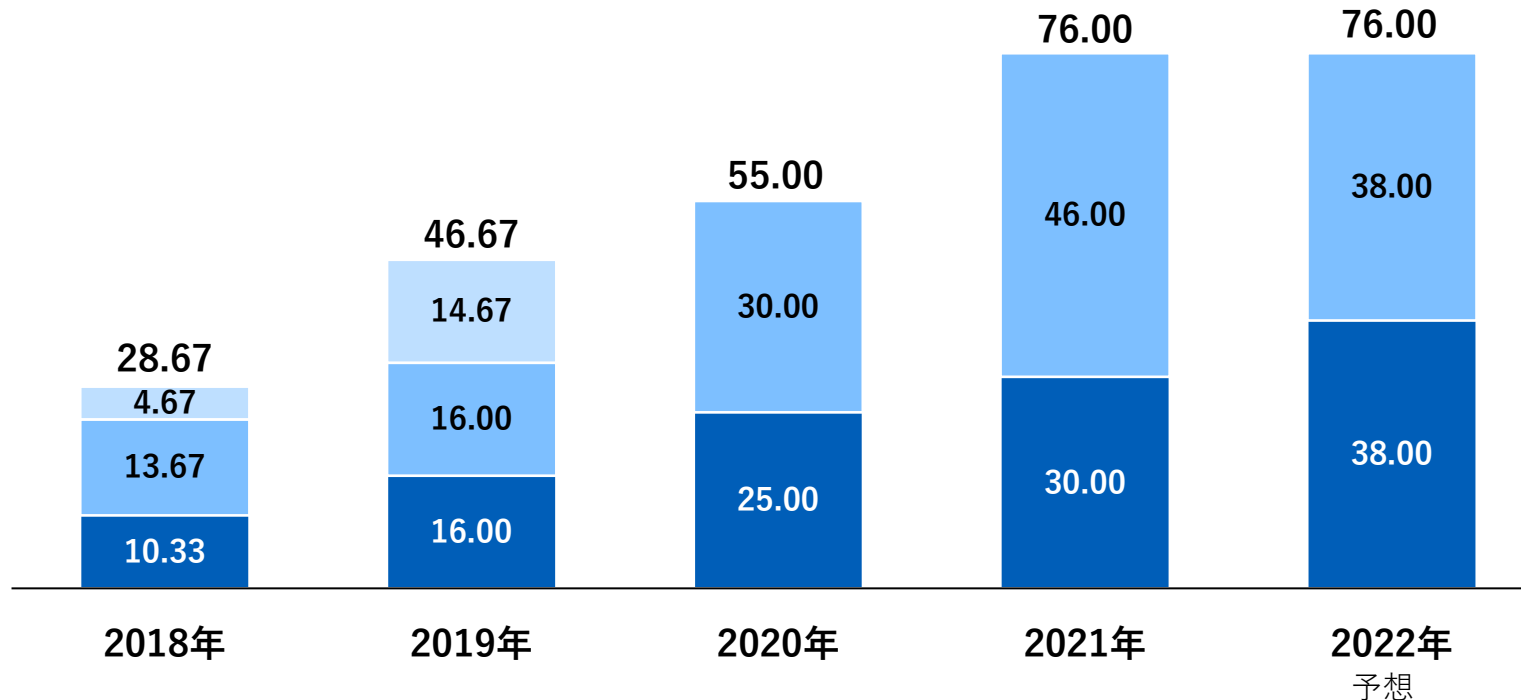
■ 利益分配に関する基本方針

戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案した上で、Core EPS対比**平均45%の配当性向を目処に、安定的な配当**を行うことを目標とします。

【円】

期末配当（特別）
期末配当（普通）
中間配当

2020年7月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき3株の割合で株式分割を行った。
2018年期首に株式分割が行われたと仮定して算出



配当性向	5年平均	48.6%	47.4%	44.9%	42.9%	41.9%
	単年度	48.7%	45.8%	41.2%	40.1%	40.0%

お問い合わせ先

広報IR部 インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554

E-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当 : 櫻井、佐藤、島村、吉村、山田

創造で、想像を超える。